

東海日本語ネットワークの取組

日本語ボランティアシンポジウム2020



開催日時：令和2年12月5日（土） 13:30～16:00

開催場所：オンライン開催 / 名古屋国際センター別棟ホール

対象：日本語学習支援活動に携わっている人、関心のある人

定員：オンライン90名 / 名古屋国際センター別棟ホール30名

参加費：無料

主催：東海日本語ネットワーク（TNN）

公益財団法人名古屋国際センター（NIC）

主催者挨拶

今年も日本語ボランティアシンポジウム 2020 開催の日を迎えることができたことを、心より感謝申し上げます。外国人労働者受入れの拡大が決まり、多様な文化が交わる活気ある社会が期待されようとしていた矢先に、新型コロナウイルス感染症拡大でまさに想定外の年となりました。こうした緊急時における不安な思いは、外国人も日本人も関係なく抱えていることだと思います。地域の日本語教室の活動も一時休止の状態、ボランティアもいつ再開できるのか、どのように始めればいいのか戸惑いは隠せません。

また、これはコロナ禍以前になりますが、外国人住民が増加する中、日本語学習の機会が無いまま日本での生活を送っている人の状況が、昨年度行った「名古屋市内の日本語学習ニーズ調査分析」でわかりました。コロナ禍において多くの人たちが少しずつ社会活動を再開する中で、こんな状況だからこそ気づけたこと、私たちボランティアにできることは何かを参加者のみなさんと一緒に考えたいと思います。そこで、今年のテーマを「日本語でつながろう！～今、私たちにできること～」としました。これからの日本語学習支援について、参加者の皆さんと一緒に考えたいと思います。

日本語ボランティアシンポジウムで得た情報が日ごろの活動のヒントになり、新たなつながりが見つかることを願っております。

東海日本語ネットワーク (TNN) 代表 酒井 美賀

日本国内の外国人人口は、ここ数年、急激に増加しており、外国人と日本人が共に快適に暮らすことのできる街づくりのため、外国人の日本語学習の機会の充実が図られてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染者への対策や経済活動の休止による生活支援・経済支援対策が喫緊の課題となり、出入国も制限され、日本国内の外国人人口は、今年6月末は、昨年末に比べて、約4万7千人の減少となっています。新たな入国者は減ったものの、在留外国人にとってその影響は、大きくのしかかっています。

日本語習得が十分でない、日本の制度や習慣に慣れていないことは、感染時や感染予防の対応を遅らせ、生活支援や経済支援の申請にも支障が出てきます。外国人労働者の雇用も奪われています。外国人の生活を守るためにも、日本語学習機会を確保することが大切です。日本語教室におきましても、オンラインによる学習を取り入れるなど、工夫を凝らしながら進めていただいています。本年度のシンポジウムのテーマは、「日本語教室に通うことのできない外国人」です。東海日本語ネットワークが昨年度実施した調査をもとに、日本語教室に通えない外国人の課題と対策や感染症への対策について、学ぶ場としていただきたいと思います。

最後に、本年もこのシンポジウムの開催にご尽力いただきました東海日本語ネットワークの皆さまをはじめ、関係者の皆さまに感謝申し上げますとともに、皆さまの活動のより一層の発展を祈念いたします。

公益財団法人名古屋国際センター (NIC) 理事長 岩田 隆

開催趣旨

外国人住民の永住志向が高まりを見せているなか、日本語学習の機会がないまま日本で暮らす外国人の状況が、東海日本語ネットワークの名古屋市内日本語学習ニーズ調査でわかりました。また、新型コロナウイルス感染症拡大により、地域日本語教室は半年近く休講を余儀なくされ、新たな形での実施が求められています。日本語学習の機会をもつことのできない外国人に対して、日本語ボランティアができることを事例紹介等から考えます。

プログラム

主催者挨拶	<small>さかい みか</small> 酒井 美賀(東海日本語ネットワーク代表) <small>いわた たかし</small> 岩田 隆(公益財団法人名古屋国際センター理事長)	13:30~13:45
総合司会	<small>はまはら ひろや</small> 浜原 弘也(東海日本語ネットワーク)	
事例紹介:日本語学習の機会を拡げる工夫		13:45~15:00
	(1)子育てを通して学ぶ日本語 <small>おおつか</small> 大塚 ますみ 氏(江南市国際交流協会 ふくらの家)	
	(2)日本語を学んだことのない定住者への学びの機会創出 <small>まつだ しょうこ</small> 松田 章子 氏(NPO 法人トルシーダ)	
	(3)オンラインでの対話型活動 <small>たなか たくもん</small> 田中 琢問 氏(一般社団法人磐田国際交流協会)	
報告1:コロナ禍における TNN 会員教室の現状		15:00~15:15
	<small>さかい みか</small> 報告者:酒井 美賀(東海日本語ネットワーク代表) <small>おざき あきと</small> コメンテーター:尾崎 明人 氏(名古屋外国語大学名誉教授)	
報告2:「教室へ行こう!キャンペーン」事業について	東海日本語ネットワーク	
休憩	*名古屋国際センターでの視聴者は解散	15:15~15:25
オンライン交流会:今、私たちにできること		15:25~15:55
閉会挨拶	<small>やまもと つよし</small> 山本 剛 (東海日本語ネットワーク)	15:55~16:00

事例紹介

日本語学習の機会を拡げる工夫

事例紹介者：

大塚 ますみ（江南市国際交流協会 ふくらの家）

松田 章子（NPO 法人トルシーダ）

田中 琢問（一般社団法人磐田国際交流協会）

登壇者 プロフィール

大塚 ますみ 氏

江南市国際交流協会 ふくらの家にて日本語支援員としてボランティア従事する。日本語学習者の妊娠・出産を経て、子育ての悩みを受けたことをきっかけに2018年12月「子育てサロン」を立ち上げる。外国人と日本人が国籍に関わらず子育てを楽しめる居場所作りに取り組んでいる。

松田 章子 氏

特定非営利活動法人トルシーダ理事。外国人の子どものための居場所事業として豊田市保見団地で開催しているCSN日本語教室の活動に、2006年から参加している。2013年から高校進学を希望する子どものための進学準備教室、2017年から外国人の16歳から45歳までのための就労支援日本語教室も担当している。

田中 琢問 氏

2017年より一般社団法人磐田国際交流協会のスタッフとして活動。2019年に新しく始まったLaLa日本語教室コーディネーターを担当。2020年度からは理事として協会に関わっている。日本で生まれ育ったブラジルルーツの日系4世。自身のルーツを生かし、協会以外の団体でも活動し、市内外の多文化共生推進活動に注力している。

子育てを通して学ぶ日本語

江南市国際交流協会 ふくらの家 大塚 ますみ

1. ふくらの家の活動

1995年10月に国際交流協会を設立し、市内に住む外国人との交流を通し地域での多文化共生を推奨する活動を実施。2005年には古民家を借りて「ふくらの家」を開き、日本語習得支援事業や、外国人児童生徒の学習支援事業を行っている。2018年10月に「多文化プラザ」を開設し、同年12月より「子育てサロン」をスタート。令和元年度愛知県「多文化子育てサロン」設置促進事業を受託し、親子が安心して参加できる居場所作りを提供している。

2. 「子育てサロン」の実施にいたる過程やきっかけ

- ・ 当協会で行われている日本語習得支援事業「ワイワイ日本語」に通っていた外国人が出産を機に教室へ通えなくなり、日本での育児の不安や悩みを受けた事。
- ・ 近年、妻子を日本に呼び寄せる外国人が増えたことにより、保育園や学校の情報を提供する場が必要と感じた事。
- ・ 子どもを連れて日本語教室に参加したが、子どもが泣きだし勉強に集中できない、まわりに迷惑がかかるなど、気軽に教室に参加できない事。
- ・ 日本人親子と外国人親子が国籍に関わらず、同じ時間を共有し、子育てを楽しめる居場所作りを提供するため。
- ・ 一人でも多くの日本人親に、外国人親の「困り感」を知ってもらい、同じ立場で悩みを共有しあえる居場所作りを提供するため。

3. 事例の成果

令和元年度愛知県「多文化子育てサロン」設置促進事業を受託したことにより、行政や他機関と連携し多くの情報や学びの場を得た。また日本人親子の参加が増えた。

開催当初、外国人にどう接したら良いのかわからないと言っていた日本人のお母さん達に対し「やさしい日本語」の理解を促し、外国人にわかりやすい日本語で話すように依頼しコミュニケーションを図るようにしてきた結果、スタッフが間に入らなくても、次第に参加者同士が仲良くなり自然に会話が弾んでいる様子が見え始めた。

親同士で自国の子育ての習慣や違いなどを話し合い、また月齢が近い子どもの悩みを相談することで、自分の子どもだけではなくお互いの子どもの成長を喜ぶ姿が見られるようになった。子育てを通して生活に必要な日本語を実際の体験から学んでいる。

4. 令和元年度愛知県「多文化子育てサロン」設置促進事業

全9回の講座を通して外国人親子と日本人親子の交流や相互理解を図りながら、外国人保護者に対する子育てに必要な情報の提供や日本語能力を育成する活動を行う。

	内容	参加者
第一回	「子どもと防災」 子どもの安全について 楽しく学びましょう 講師：赤十字ボランティア	7か国 計19名
第二回	「子育て支援センターへ行こう」 支援センターって どんなところ？ 会場：愛知県江南短期大学内 子育て支援センター	3か国 計13名
第三回	「赤ちゃんふれあい体験」 中学生が赤ちゃんとおふれあいます 会場：江南市立古知野中学校	4か国 計14名
第四回	「インフルエンザに負けない体づくり」 健康と栄養について学びましょう 講師：江南市保健センター職員	2か国 計14名
第五回	「クリスマスケーキを作ろう」 親子で楽しく ケーキをつくりましょう 講師：当協会クッキングボランティア	4か国 計60名
第六回	「赤ちゃんとお踊ろう」 抱っこしながら一緒にリズム遊びをしましょう 共催：愛知県芸術劇場	4か国 計40名
第七回	「多文化クリスマスパーティ」 外国の珍しい料理をもちよりお祝いしましょう	8か国 計118名
第八回	「子どもの言葉 ～母語を育てる～」 子どもの言葉について専門家の話をききます 講師：愛知県淑徳大学 松本一子氏	5か国 計27名
第九回	「保育園にいこう」 保育園って どんなところ？ 会場：江南市立藤里保育園	4か国 計15名

5. 現在の子育てサロンの様子

コロナ禍の自粛期間においては、オンラインでのビデオ通話を利用し決まった時間に繋がる事が出来るなど、親子が安心して参加できる居場所作りを提供。現在は新型コロナウイルス感染予防のため事前申し込みにて参加組数を制限し継続している。

日本語を学んだことのない定住者への学びの機会創出

NPO法人トルシーダ 松田 章子

1. 日本語を学んだことがない外国人の背景

- ◆ ブラジルやペルーから来日した南米系の住民のみなさん（タイトルには「定住者」と表記）で、母国で日本語を学んだ経験がある人は少ない。日本語が全然わからないまま来日しても派遣社員等で働ける場所があり、職場に通訳がいるので日本語が不要だという背景があった。
- ◆ 今後は母国で日本語を学んできた研修生と競争していかなければならない。
- ◆ 現在仕事がある人も、日本語がわからないと将来仕事なくなるという危機感がある。仕事のために日本語を学びたいという南米系の住民が増えている。
- ◆ 来日して10年20年と長く日本に住んでいるのに日本語がゼロだということを恥ずかしく思っている人も多い。
- ◆ 日本語を学んだ経験がないので日本語教室に対して敷居が高いと感じてしまう

2. トルシーダが開催する初級日本語教室の概要

場所 : 外国人が集住する豊田市保見団地内のUR公団集会所

時間 : 毎週火曜日と水曜日の週2回（4月～11月）

①朝教室 朝7時から8時半 ②夜教室 夜7時から8時半

文字（ひらがな、カタカナ）や初級会話・文法の説明などバイリンガルスタッフが主に担当し、日本人スタッフはアシスタントとして会話の練習相手になったり、色々な疑問に答えたりしている。

3. 外国人学習者を日本語教室に呼び込むための工夫

- ◆ 市役所からの受託で昼間の中級日本語教室を開催する中で日本語を学びたいという日本語ゼロの人からの問い合わせが多かった。南米系の住民のみなさん

- 仕事がしながら日本語が勉強できるような参加しやすい時間と場所を検討する必要を強く感じた。1年前から市役所へ働きかけ、今年4月から初級日本語教室を開くことができた。夜勤と昼勤の2交代制で働く人でも日本語の勉強が続けられるように、朝と夜の2教室に分けた。学習者は仕事のシフトによって朝と夜どちらの教室でも勉強することができるようにしている。
- ◆ 朝7時という早朝から団地内で日本語教室を行うことは前例がなく、市役所UR公団事務所との調整が必要だった。しかし、その時間にしか学べない人のための日本語教室の必要性の説明を続けたことで、「前例がない」という壁を乗り越えて初級日本語教室を開くことができた。
 - ◆ ポルトガル語と日本語の両方が話せる人にバイリンガルスタッフになってもらい、日本語を学んだことがない、日本語が全然わからない人でも気軽に学びに来られる教室を目指した。日本語教室の募集チラシの文言も、日本語を学んだことがない人に「これなら私でも勉強できそうだ」と思ってもらえるよう、住民のみなさんに意見をもらって工夫した。
 - ◆ 当初は数人でも来てくれたら、と思っていたが、朝・夜両方の教室で40人の応募があり、現在キャンセル待ちの状態。学習者はリラックスして学び、日本人スタッフにも積極的にコミュニケーションをとってくれる。

4. 日本語教室で大切にしていること

- ◆ 恥ずかしがらずにわからないことや本音を言える雰囲気づくりを心掛けていく。バイリンガルスタッフがキーパーソンの役割を果たしてくれるところが大きい。
- ◆ 大人にとっても日本語教室が居場所となっていて、教室で自分の存在意義を認めてもらいたいと思っていることが分かった。学習者との対話を大切にし、なにげない対話の中から学習者の言いたいことや知りたいことの本音をキャッチして教室活動に反映するようにしている。

オンラインでの対話型活動

一般社団法人磐田国際交流協会 田中 琢間

1. LaLa 日本語教室について

- ・ 磐田国際交流協会が文化庁からの委託事業で開催している4教室の中の1つ。
- ・ 日本生活クラスとして、生活に直接関わるようなテーマを取り扱って活動。
- ・ 「三井ショッピングパーク ららぽーと磐田」の一室を借りて対話型の活動を実施。
- ・ 最大のメリットは「教室から出たら実践の場」
- ・ 商業施設のため、様々な店舗が館内にあり、総合案内所で実際に質問をしたり、お店で軽食を注文したりする活動がすぐに実践できる。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で6月からオンラインで開催している。

2. 会場の制限、立ち上げに至るまで

- ・ 磐田国際交流協会の教室は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と年度の変わり目が続き、今年3月から教室開催が無かったが、感染症を心配する学習者の心身の健康への心配の声があったことから対面教室の開催を待つだけでなく、オンラインでできることを模索することに。事務局から、教室コーディネーター、オンライン教室に興味がある日本語支援者等 10 名程に声をかけ、5月半ばから6月初めまでの週末に4回、無料のZoomミーティングを使い、オンライン教室を試行。
- ・ 同時期に新型コロナウイルス感染症の影響で、6月以降の会場利用ができなくなることが決まった。近隣の交流センターを借りて実施することも検討したが、場所変更の混乱を避けること、会場の人数制限が厳しいことなどから、オンラインでの教室開催を決めた。学習者を入れたオンラインの授業の経験もほとんどなく、ノウハウもゼロではあったが、始めてみないことには先が見えないため、オンライン教室試行が終わった翌週から実際の教室を始めた。
- ・ 6月13日の初回は想定よりも操作に手間取ったり、予定の時間通りに活動が進まなかった。雰囲気としてはよかったが、進行をする立場としては満足のいく活動とは言えなかった。

3. 対面の活動との違い

- ・ 開催日ごとに参加を確認。参加希望者にメール等で事前にZoomのリンクを送る。
- ・ 参加者を事前に把握しやすい。安定した活動のためには学習者の人数に近い人数の補助者が必要なため学習者の人数が多ければ事前に依頼するなどして調整。
- ・ 対面の活動に比べ、グループを回す補助者の役割がより大切になる。
- ・ 対話のペースが遅くなる。対面の1.2倍くらい。

【メリット】

- ・ マスクなしで対話ができる。
- ・ 画像の共有が容易なため、イメージを共有しやすい。
- ・ たくさんの人の前で話している感覚がないので、ストレスが少ない状態で発表がし

やすい（すぐ隣でフォローしてくれる学習者が居ない、実感しにくいいため困惑する学習者も一定数いる可能性がある）。

- ・ 場所の制約がないため、市外、国外からでも気軽に参加できる。子どもが小さかったり、交通手段が無く対面の教室に参加しにくい人も参加できる。

【デメリット】

- ・ 隣に座って対話をしたり、近隣施設へ訪問する活動（買い物、料理等）ができない。
- ・ 一緒に作業をしたりする活動は難しい。
- ・ ビデオをオフにした状態で参加する学習者に関しては、きちんと伝わっているのか、理解できているのかの確認が非常に難しい。

5. これまでのオンライン活動

- ・ 導入→事前自己評価→提示→グループ対話→発表→ペア対話→事後自己評価→振り返り

※外C o：外国人住民コーディネーター、T S：テクニカルサポート

実施数（日付）	テーマ（指導者）	参加者数	変更・改善点等
1（6月13日）	ステイホーム （進行役、外C o）	補助者9人 受講者7人	初の開催、10分休憩を入れて計90分
2（6月27日）	これからやりたいこと （進行役、外C o）	補助者9人 学習者7人	グループ対話をより長く設定
3（7月11日）	自己紹介 （進行役、外C o、T S）	補助者5人 学習者10人	T Sの配置、休憩なしの90分
4（7月25日）	この夏を乗り切ろう （進行役、外C o、T S）	補助者8人 学習者7人	遅れて参加した学習者対応
5（8月8日）	防災について考えよう！ （進行役、外C o、T S）	補助者8人 学習者11人	アクティビティの実践（マスク作り）
6（8月22日）	私の出身地 （進行役、外C o、T S）	補助者8人 学習者9人	グループ発表時の補助者の役割設定
7（9月12日）	おいしい食べ物 （進行役、外C o、T S）	補助者10人 学習者9人	進行役を設定（田中以外の進行役で実践）
8（9月26日）	すきな〇〇 （進行役、外C o、T S）	補助者10人 学習者8人	提示をより丁寧に行い、レアリアを活用
9（10月10日）	私の買い物 （進行役、外C o、T S）	補助者5人 学習者6人	質問を交えた提示、開始・終了のあいさつ
10（10月24日）	お祭り・イベント （進行役）	補助者5人 学習者7人	投票機能、初級レベルの学習者の発表対応

6. 今後の展望と課題

- ・ 対面時に配布していた学習確認シートや活動シート（学習者の持ち帰る用）の活動。
- ・ 補助者、学習者の垣根を超えた交流の促進。
- ・ 会場が利用可能となった際のオンラインの学習者について（要検討）。

報告

コロナ禍における TNN 会員教室の現状

報告者：

酒井 美賀（東海日本語ネットワーク代表）

コメンテーター：

尾崎 明人（名古屋外国語大学名誉教授）

登壇者 プロフィール

酒井 美賀 氏

東海日本語ネットワーク代表。名古屋市地域日本語教育コーディネーター。NIC日本語の会、ことばの会、がんばる一む99にてボランティア活動中。また、TABO ネット、やさしい日本語劇団、ガイタネット（外国人支援・多文化共生ネット）にも参加し日本人と外国人住民との橋渡し役的な活動の範囲を広げている。

尾崎 明人 氏

名古屋大学・名古屋外国語大学名誉教授。接触場面の会話研究で豪州モナシュ大学より博士号を取得。元日本語教育学会会長。文化庁創立50周年記念・長官表彰を受賞。独立行政法人国立国語研究所評議員、文化審議会国語分科会日本語教育小委員会委員などを歴任。著書に『会話教材を作る（日本語教育叢書 つくる）』（共著）など多数。

コロナ禍における TNN 会員教室の現状

東海日本語ネットワーク 酒井 美賀

新型コロナの影響で活動を中止していた教室も徐々に再開するとの声が聞こえ始めた 8月に TNN 団体登録会員の教室に向け活動状況を尋ねてみました。質問の内容は2つで、21 教室から回答をいただきました。

1. コロナ禍の中の教室活動

- ・ 9月から教室活動を再開したところが多くその際に始めたコロナ対策として、手指の消毒、マスク着用、検温などは新しい様式として定着しつつある。
- ・ 対面での活動の場合フェイスシールドの使用やパーテーション衝立は、予想以上に会話の妨げになる様子で、使わない人が増えてきている。
- ・ 施設によって人数制限の厳しいところがあり、対面とオンラインを並行に行ったり、90分でやっていたところ60分に短縮しているところもある。

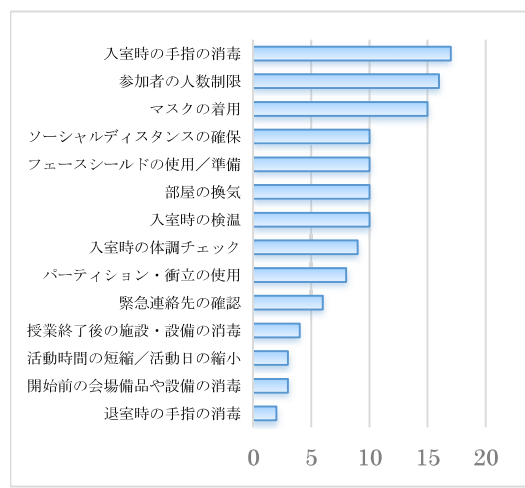
2. 新しい試み

- ・ クラス活動やミーティングをオンラインを使って行ったり、オンライン講座に参加するなど、繋がりが途切れないように試みている。
- ・ 教室によっては、独自にオンライン勉強会を開催するなど、積極的な活動が見られた。また、学習者の希望でオンライン授業を試みているところもある。

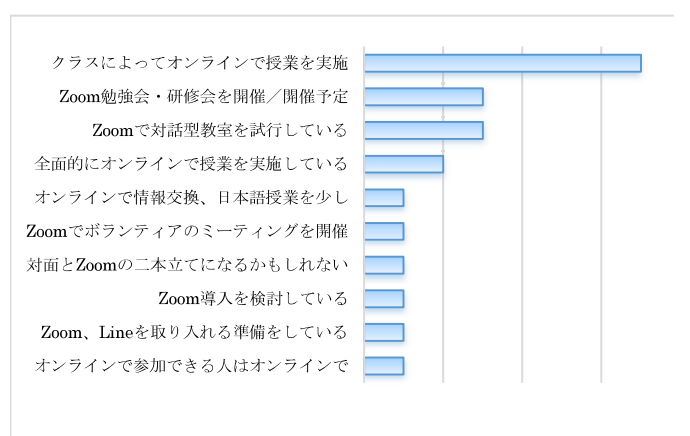
3. 再開後の状況

- ・ 新規の学習者も少しずつ増えてきている。
- ・ 対面で参加できないボランティアにオンライン教室担当を任せているところもある。
- ・ 11月現在の学習者の数は昨年に比べ減少している。
- ・ コロナ感染者数が増えており、心配は絶えないが、対面とオンラインの良いところを生かし、両方行うことで教室運営を考えているところが多いようである。

質問① コロナ禍において
どのような対策をしているのか



質問② 教室活動の中で、距離の確保や消毒、パーテーションの設置などに加え、コロナ禍で教室活動がどのように変容したか



★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ MEMO ★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

日本語ボランティアシンポジウム 2020
日本語でつながろう！～今、私たちにできること～
プログラム

2020年12月5日（土）

東海日本語ネットワーク・公益財団法人名古屋国際センター

東海日本語ネットワーク

〒450 - 8992 名古屋市中村区名駅 1-1-1 JP タワー名古屋 1 階
名古屋西郵便局 JP タワー名古屋内分室局留

<http://tnnjp.com/>

公益財団法人名古屋国際センター

〒450 - 0001 名古屋市中村区那古野一丁目 47 番 1 号
TEL 052-581-5689（交流協力課） FAX 052-581-5629

<https://www.nic-nagoya.or.jp/japanese/>

日本語ボランティア研修 2020～開かれた地域社会をめざして～

第7回 お話を聞く会

外国人受入れ制度と現状



講師：鳥井一平（移住者と連帯する全国ネットワーク）

【講師からのメッセージ】

みなさんはきっと実感されていると思います。すでに始まっている多民族・多文化共生社会。「移民政策はとらない」とされる中で、しわ寄せは現場にきて、摩擦が起きたりしています。コロナ感染拡大は、より一層の困難を移民にもたらしめました。一方で、この社会が移民の存在なく成り立たないことも示しました。地域、職場で、生活し、働いている、この国の担い手としての移民を正面から見るのが大切です。これからの社会を一緒に考えていきましょう。

日 時：2021年2月13日（土） 午後1時30分～午後3時00分

場 所：ウェブ会議ツール「Zoom」を用いて開催

*オンラインでの参加が難しい方は、名古屋国際センター3階第2研修室にてオンラインで実施する研修を視聴できます。

対 象：日本語ボランティアおよびその活動に興味のある方

定 員：オンライン：50名 / 名古屋国際センターでの視聴：20名 *ともに先着

参 加 費：無料

申込・問合せ 公益財団法人名古屋国際センター交流協力課

申込→



E-mail: vol@nic-nagoya.or.jp / TEL: 052-581-5689 (問合せのみ)

申 込 方 法：メール、ウェブにて受付 ①お名前②フリガナ③ご所属④電話番号⑤メールアドレス⑥参加方法（オンラインで参加・名古屋国際センターで参加）をお知らせください。申込受付期間：1月19日（火）10:00～2月9日（火）17:00まで
*期日を過ぎた後の申し込みはお受けいたしかねます。ご了承ください。

質 問 受 付：講師へのご質問は、1月26日（火）までに下記URLからお送りください。時間の都合等により全てのご質問にはお答えできない場合があります。

<http://tnnjp.com/form01.html>



《次回予告》 お話を聞く会 3月13日（土）13:30-15:00

テーマ：ある元外国人児童生徒の話

講師：伊藤ゆり（名古屋市教育委員会母語学習協力員 ポルトガル語）

★「東海日本語ネットワーク（TNN）」は日本語ボランティアの連絡組織です。主に、愛知・三重・岐阜・静岡の各県で活動を展開しているボランティアグループとボランティア個人が会員になっています。★この事業は TNN が、名古屋市の指定管理を受けている（公財）名古屋国際センター（NIC）との共催で行っています。★現在、ボランティアとして活動している方、これから関わろうと考えている方を対象に、広く日本語ボランティア活動に関する学習・交流の場を提供し、外国人住民と共生する地域社会のあり方を考えていきたいと思っています。★研修会は、8月と1月、「日本語ボランティアシンポジウム」が開催される12月とその準備の11月を除き、毎月行います。

日本語ボランティア研修 2020～開かれた地域社会をめざして～

第8回 お話を聞く会 ある元外国人児童生徒の話



講師：伊藤 ゆり（名古屋市教育委員会母語学習協力員 ポルトガル語）

【講師からのメッセージ】

来日してもうすぐ30年が経とうとしています。日本語も日本文化も知らなかった一人の女の子はどんな壁にあたり、どのようにそれを乗り越えてきたのかお話しさせていただきます。また、これからの外国人児童生徒をどのように支援していけばよいのか、皆さんと共に考えていきたいと思えます。

日 時：2021年3月13日（土） 午後1時30分～午後3時00分

場 所：ウェブ会議ツール「Zoom」を用いて開催

*オンラインでの参加が難しい方は、名古屋国際センター5階第1会議室にてオンラインで実施する研修を視聴できます。

対 象：日本語ボランティアおよびその活動に興味のある方

定 員：オンライン：50名 / 名古屋国際センターでの視聴：20名 *ともに先着

参 加 費：無料

申 込 ・ 問 合 公益財団法人名古屋国際センター交流協力課


申込→



E-mail：vol@nic-nagoya.or.jp / TEL：052-581-5689（問合のみ）

申 込 方 法：メール、ウェブにて受付 ①お名前②フリガナ③ご所属④電話番号⑤メールアドレス⑥参加方法（オンラインで参加・名古屋国際センターで参加）をお知らせください。申込受付期間：2月15日（火）10:00～3月9日（火）17:00まで
*期日を過ぎた後の申し込みはお受けいたしかねます。ご了承ください。

質 問 受 付：講師へのご質問は、2月22日（火）までに下記URLからお送りください。
時間の都合等により全てのご質問にはお答えできない場合があります。
<http://tnnjp.com/form01.html>

*****  *****

《次回予告》 お話を聞く会 4月10日（土）13:30～15:00

テーマ：自主夜間中学 ～はじめの一步～

講師：笹山悦子（愛知夜間中学を語る会 代表）

★「東海日本語ネットワーク（TNN）」は日本語ボランティアの連絡組織です。主に、愛知・三重・岐阜・静岡の各県で活動を展開しているボランティアグループとボランティア個人が会員になっています。★この事業は TNN が、名古屋市の指定管理を受けている（公財）名古屋国際センター（NIC）との共催で行っています。★現在、ボランティアとして活動している方、これから関わろうと考えている方を対象に、広く日本語ボランティア活動に関する学習・交流の場を提供し、外国人住民と共生する地域社会のあり方を考えていきたいと思えます。★研修会は、8月と1月、「日本語ボランティアシンポジウム」が開催される12月とその準備の11月を除き、毎月行います。